

このたびの台風19号により被災された皆様、ならびにそのご家族の皆様にご心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

現在会員登録数3,173人さま。次号は11月20日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

■-----■

【1】お知らせ

●講演会「紙芝居の歴史から子どもの読書文化について考える」参加者募集
講師：浅岡 靖央 さん（児童文化研究者、白百合女子大学教授）

日時：11月30日（土）午後2時～4時

会場：大阪府立中央図書館 2階大会議室（東大阪市荒本）

定員：60人（申込先着順） 参加費：1000円

主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

後援：大阪府立中央図書館

助成：子どもゆめ基金助成活動

お申込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#kamishibaikoenkai

●第17回国際グリム賞 贈呈式・記念講演会 参加者募集

世界の優れた児童文学研究者を顕彰する第17回「国際グリム賞」（国際児童文学研究賞）の受賞者が、三宅興子教授（梅花女子大学名誉教授、当財団特別顧問）に決定しました。贈呈式および記念講演会を開催します。

講師：第17回国際グリム賞受賞者 三宅 興子 教授

演題：「イギリス児童文学史再構築論を通して、日本児童文学を再考する」

日時：11月9日（土）午後2時～4時

会場：国民會館 武藤記念ホール（大阪府中央区大手前2）

定員：100人（申込先着順） 参加費：無料

主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団／

一般財団法人 金蘭会／大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

お申込み、詳細は ↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/01_grimm/index.html#17kettei

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。
お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コラム
■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『きつねの橋』 久保田香里/作 佐竹美保/絵 偕成社 2019年9月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：平安時代。15歳の平貞道は源頼光の郎等として仕え、名をあげたいと願っている。先輩たちにそそのかされて橋の上で人をだますきつねを捕えたところ、そのきつねは、葉月と名乗り、幼い齋院を助けようとしていることがわかる。貞道は、同じ郎等の平季武と護衛などの仕事をする中で、袴垂（はかまだれ）という盗賊と出会う。貞道と葉月は、袴垂の捕獲と齋院の幸せのためにお互い助け合うようになる。

Y：平安時代の武士の起こりってこんな感じだったのかなあと読みながら読みました。

T：この作品は、実は『今昔物語』等に出てくる「頼光の四天王」の中の二人の若かりし頃が描かれていますが、作品にはそのことは書かれていません。

そのことによって、貞道や季武が、読者にとって歴史上の人物にならず、読者が親近感を持って、一緒に冒険できる人物としてとらえることができる。それが、この作品を魅力の一つだと思います。

Y：なるほど、背後に『今昔物語』などの説話があることで、豊かな物語性を作品に感じることができたのかもしれない。

T：盗賊・袴垂も、『今昔物語』『宇治拾遺物語』に出てきます。また、「五の君」という少年については、後に藤原道長になるということが作中に書かれています。

Y：史実と説話の隙間を巧みに物語化した作品だと思いました。

私がおもしろかったのは、個性的な主人公が次々と試練に立ち向かい、成長していくというような、一本筋の通ったストーリー展開というよりは、現在にもいるような一人の若者が日々の暮らしの中で、きつねや盗賊に偶然出会うことで、少しずつストーリーが展開していくという点でした。そのようなストーリー展開に、語りのような、絵巻物のようなイメージを抱きました。

T：異界との境界ともいえる、京(みやこ)のはずれの橋で始まって橋で終わる構成で、すぐそばに異界があった平安時代の雰囲気をもよく出していますね。

貞道が、きつねの葉月の命を助けたり、友だちの季武のことを大事に思ったりする誠実な若者であるところも読者が惹かれる点だと思います。

Y：佐竹美保さんの挿絵からは平安時代という舞台設定と登場人物の魅力が

垣間見えます。

T：ラストのシーンはこれからどうなるのかなと思わせます。続編が読みたいになりました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第50回「カイロ団長」

「王のご命令」という切り札

前回（本メルマガ NO.109 参照）は、かえるが活躍する「畑のへり」でした。今回はあまがえるが仲間たちと愉快地働く「カイロ団長」を取り上げます。

30匹のあまがえるが、日々楽しくいっしょに仕事をしていました。仕事とは、虫仲間から頼まれて花畑を拵えたり、立派な庭を作ったりするもので、彼らは忙しく働くことに喜びを感じています。

ある日、仕事を終えたかえるたちは〈舶来ウエスキイ〉と書かれた看板を見つけ、物珍しいその店に入ります。そこはとのさまがえるの店で、ウエスキイを一杯二厘半で飲ませる、いわば飲み屋でした。かえるたちは何杯もおかわりをし、酔い潰れてしまいます。

やがて、とのさまがえるに叩き起こされたあまがえるは、それぞれ三百四十二杯分などと大金の勘定を迫られ、払えないなら警察へ突き出す、そしたら死刑になってその太い首を〈シュッポオンと切られるぞ〉と脅されて、仕方なくとのさまがえるの家来になります。

〈いいか。この団体はカイロ団ということにしよう。わしはカイロ団長じゃ。あしたからはみんな、おれの命令にしたがうんだぞ。いいか。〉

カイロ団長は団員に無理難題を言い付け、あまがえるは過重労働で疲弊。そこに王さまからの新しいご命令が発せられ、両者の立場は逆転します。

善良な労働者から搾取する狡猾な商人と、自然と一体化する仕事に喜びを見出す労働者（被搾取）。その対立の構図を骨子としつつ、結末では商人が自らの悪を悔い改め、純粋な労働者が救済されるという物語です。

問題はこの対立の解決方法で、突如降って湧いた「王の命令」という絶対的権力によってなされます。武器を持たず、自然を愛する者の反乱や革命は非現実的であり、かといって一方的な搾取を肯定もできず、結末を王の絶対的命令にせざるを得なかった作者の苦悩を感じます。

しかし本作の魅力は、やはりあまがえるたちのユーモア溢れる振る舞い、自然のなかで生き生きと働く純粋な姿、そしてその美しさにあると言えます。豊かな自然の崇拝者であった賢治にとって、酒には弱い純粋に仕事に打ち込むあまがえるたちの生き方は芸術そのものであり、慈しむべき存在であったのかもしれない。（ペ吉）

（本文の引用は、新潮文庫版『新編 銀河鉄道の夜』によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 4

「ああ、小鳥！金の小鳥！」

これは、北風の子がつむじ風を起こして、いちょうの葉っぱが風に舞った様子を、女の子が見てさげんだことばです。

北風は、おかあさんから「人間やどうぶつによろこばれないんだよ。」と言われたことを実際に体験して元気をなくしています。そんな時、野原の真ん中に立っている一本のいちょうの木が北風に助けを求めます。葉っぱをぜんぶ風で落として、木の下にいる捨てられた子ねこの上に自分の葉っぱをふとんのようにかけてほしいというのです。北風は、いちょうの望みをかなえます。

そして次の日の朝、赤いオーバーをきた女の子と髪の毛の白いおばあさんがやってきたとき、北風は、子ねこが見つかるように、子ねこの上の葉っぱをはらってやります。女の子が子ねこを拾ったのを見届けた北風の子はうれしくなって「くるくるくるとまわりだしました」。それがつむじ風になって、「三角の葉っぱが細いつつになって空にみるみるかけあがっていきます」。それを、女の子が見て「金の小鳥」とさげぶのです。

まずは、いちょうの葉っぱが風に舞う姿を「金の小鳥」と表現したその美しさが強く印象に残ります。それと同時に、金の小鳥が舞う姿は、北風の子が、自分の能力を使っていちょうや子ねこのために役に立ったことのうれしさ、誇らしさが感じられ、いちょうの葉っぱの昇天とも読み取れ、女の子とおばあさんの温かい心の交流とも、子ねこの命の祝福ともとれる場面です。

この作品に出会って以来、いちょうの葉っぱを見ると、「金の小鳥」と思わずにはいられません。(Y)

* あまんきみこ「金の小鳥」 『あまんきみこセレクション3』 三省堂
2009年12月 p.154

《4》 行って来ました！

刈谷市美術館で11月10日まで開催されている巡回展「『ねないこだれだ』誕生50周年記念 せなけいこ展」に行ってきました。貼り絵の手法で作られた絵本や紙芝居の原画など約300点が、「絵本作家せなけいこ誕生」「デビュー前夜」「子どもとの生活の中から生まれた絵本」「おばけとゆうれい」「終わらないせなけいこの絵本世界」の5つに分けて展示されています。

1969年絵本デビュー作の「いやだいやだ」シリーズや、おばけの絵本や「めがねうさぎ」シリーズなどの原画がたくさんありました。初期の頃の作品は、貼り絵にする紙を手でちぎるなど、輪郭線が個性的に作られており、あたたかい感じがしました。使用されている紙の材質や色柄もいろいろで、白いレースのような紙やチェックや花柄の紙など、同じ紙がちがう作品でも使われているのが発見できます。包装紙や公共機関の封筒の内側や羊羹の包み紙な

ど、実際に使われた紙も展示されていました。切れ端まで大事に残されていて、紙が好きな私はせなさんの紙への愛情に感激しました。

絵本作品だけでなく、これまであまり知られていなかった、絵本作家になる前の様々な仕事も紹介されていました。セロファンを使った「色影絵透視紙芝居」、セツ・モード・セミナーで勉強していたスタイル画、貼り絵の原画を撮影してフィルムにした幻灯など、のちの絵本の仕事とのつながりが読み取れます。「飛行靴」「星のひとみ」「メロウ」の朗読付きの幻灯映像を観ることができ、とてもおもしろかったです。

『ねないこだれだ』の一場面を背景に撮影できるコーナーや、巨大な絵本のパネルなど、子どもが楽しめるコーナーもあり、親子3代の家族連れもたくさん来ていました。(K)

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介

● イヒョン作家講演会

日時：11月2日(土) 14:00~16:00

場所：アネックスパル法円坂(大阪市教育会館)

定員：50人 参加費：有料 申し込み：必要

主催：オリニほんやく会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『きつねの橋』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.110 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は11月12日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

夕暮れがぐっと早くなり、朝晩の冷え込みも急に増してまいりました。夏物もやっと仕舞い込んでもよさそうな季節になってきましたが、気をつけたいのは適度な温度調整。脱ぎ着できる服装と健康管理で、くれぐれもご自愛ください。この週末は、古い友人たちとハイキング。紅葉には少し早いかもしれませんが、秋真っ只中です。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

